

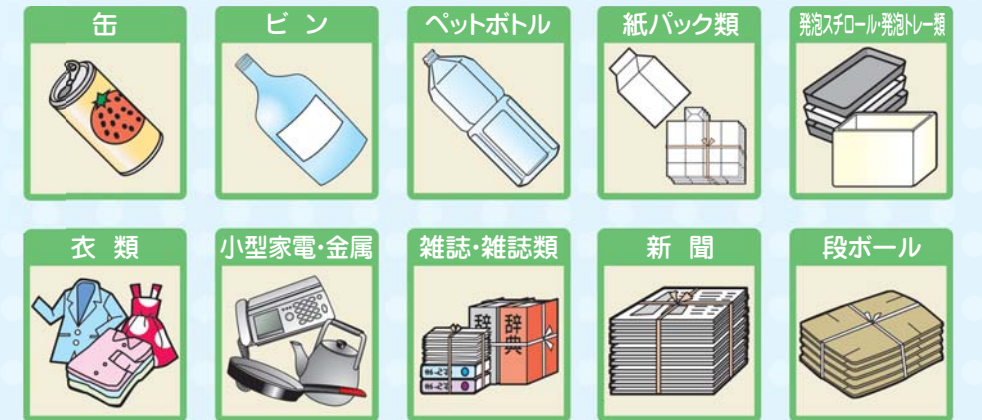
分ければ資源・混ぜればごみ!

分別を徹底し、ごみを減らそう!

市民のページ 目指せ!ゼロ
ごみ減量推進市民会議が企画・編集したコーナーです。

知恵袋 市民 行政
ごみ減量推進市民会議とは、「日野市ごみゼロプラン」を実行に移していく会議で、市民約20名で構成されています。

Part30



私たちが毎日出しているごみ。多くの市民の方はしっかりと分別を行っていると思いますが、一方で、「手間がかかる」等の理由から分別せずにごみを出している方もいます。

きちんと分別すれば資源になるのに、混ぜてしまえばごみになってしまう…これらをしっかりと分別して資源化すればどのくらいごみを減らすことができるかを調べてみました。

1. 組成分析から見るごみの種類

組成分析とは、収集車の中から無作為にごみを抽出し、そのごみの種類と割合を調査するものです。平成27年7月に日野市が分析した結果は次の通りです。

① 可燃ごみの組成分析結果

多くの市民の方が分別をしっかり行った結果、74%は本来の燃えるごみとして出されていました。

しかし、資源化できる新聞や段ボールなどの紙類が10%、水で洗うなど、ほんの少しの手間をかけ買ったお店に返すことができるペットボトルやトレーなどのプラスチック類が12%、古着古布で出すことができる衣類などが1%含まれていました。

これらを適切に分別・資源化すれば、燃えるごみの**23%が資源**となり、ごみ量も大幅に削減することができます。

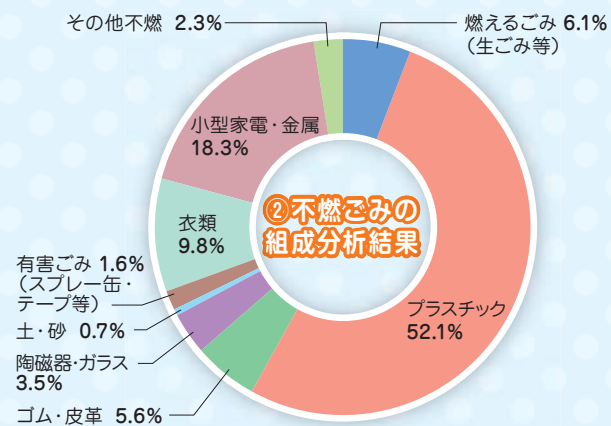
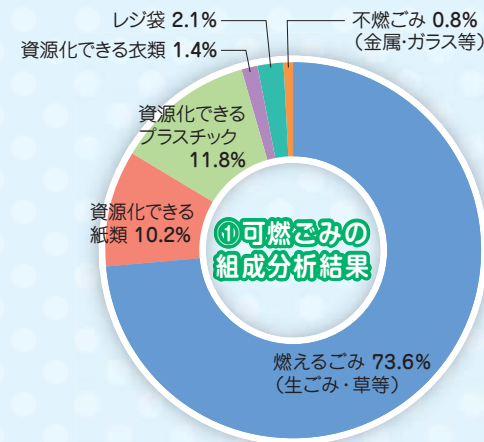
なお、スーパーのレジ袋も全体の2%もの量が入っていました。

② 不燃ごみの組成分析結果

プラスチック類が約半数の52%、その他燃えないごみも併せると全体の64%は本来の燃えないごみでしたが、クリーンセンターで処理できない土や砂、不燃ごみとは分けて出すルールになっている有害ごみ、資源化できる衣類や小型家電・金属類が不燃ごみに含まれており、これらの混入は全体の30%を占めていました。

不燃ごみも適切に分別・資源化すれば**全体の20%以上を減量**することができます。

なお、不燃ごみの中に生ごみなどの燃えるごみが残念ながら6%混入されていました。



2. 適切なごみの分別・資源化で減量できるごみの量

可燃ごみ・不燃ごみのそれぞれ20%を資源化した場合のごみの量は

平成26年度の可燃ごみ量
22,038トン×20%≒4,400トン

平成26年度の不燃ごみ量
5,322トン×20%≒1,000トン

合計5,400トン!

5,400トンものごみが減量できることになります。

3. 全体の20%を資源化できれば

資源ごみを含む、市全体のごみ量は変化しませんが、5,400トンのごみが資源化できれば、資源化率を12%も引き上げることができます。

現在、日野市で検討されているプラスチック類の資源化が進めば、さらに不燃ごみの50%が資源化できることになり、不燃ごみは大幅に減少することができます。

4. ごみを減らし、資源化する理由は?

不燃ごみは細かく破碎した後、焼却処理をするものと埋め立てをするものに分けています。

埋め立てのごみを不燃残さといひ、日の出町にある二ツ塚最終処分場に持ち込まれ埋め立てされています。

この最終処分場は、すでに44%を超える埋め立てが完了しており、処分場が満杯になってしまうと私たちのごみを埋め立てる場所が他にはありません。

多摩地域の各市では、埋立てゼロを目指して資源化を進めており、日野市でもプラスチック類の資源化を検討しています。

私たち市民も、後世のためになるべく埋め立てごみを出さない暮らしを行い、ごみを減らす必要があるのです。

5. 私たちにできること

◆**分別の徹底をしましょう。**

- ごみの分別を徹底し、資源化できるものは資源として出しましょう。

◆**ごみはなるべく出さないようにしましょう。**

- 買い物をするときに、詰替え用品や簡易包装商品などの、ごみが増えないようなものを買きましょう
- お買い物の際はマイバッグを持参し、ごみになるレジ袋は断りましょう
- トレーやペットボトルなどは買ったお店の回収ボックスに入れる「容器包装お返し大作戦」を実行しよう!

◆**生ごみを減らすため、3きり運動を進めよう。**

- 食材はロスなく**使いきり**しましょう。
- 作った料理は、**食べきり**しましょう。
- 生ごみを捨てる前に**水きり**しましょう。

※水きりの例

- ・三角コーナー用ネットなどに入った生ごみは水を入れたペットボトルの底などで押して水分を絞りましょう。
- ・ビニール等に入れて出されている場合は、端を少し切り取って水分を絞りましょう。
- ・野菜の皮などを捨ててしまう場合は、三角コーナー等に入れる前に捨てましょう。(三角コーナーなどで更に水分を多く含んでしまうため)

◆**生ごみを減らすため、3きり運動を進めよう。**

◆**生ごみを減らすため、3きり運動を進めよう。**

◆**生ごみを減らすため、3きり運動を進めよう。**

◆**生ごみを減らすため、3きり運動を進めよう。**

6. 最後に

私たち「ごみ減量推進市民会議」では、今後も行政とともに埋立てごみゼロに向けて、さまざまな取り組みの検討を進めていきます。

一緒に検討していただける市民(団体)の方を随時募集しています。事務局(ごみゼロ推進課)までお問い合わせください。